

学生ワークショップによる公共空間利活用の提案と実践

NPO法人SYL+広島大学 田中貴宏教授

- 活動の背景・問題：中通2丁目は、賑わい創出の形を採る取り組みが行われていた。その一環として実証実験が行われることになり、新たなアイデアによる取り組みが必要とされていた。
- 活動の計画：公共空間利活用のアイデア（ハード・ソフト）を考案し、実践することとした。
- 成果：中通2丁目の公共空間で小建築を建設し、実証実験を行い、中通2丁目が賑わいポテンシャルを有していることを実証した。
→2年目は賑わいマップ作成（研究的展開）

対象地(呉市中通2丁目)



10月31日(木)





アイデア検討

軍港呉 軍港 軍港

～レトロストリート～

コンセプト
軍港として栄えたころに迷い込んだようなどこか懐かしいレトロなストリート

- アーケードがない
- 電灯が暗く低い
- 空に開けた開放空間
- レトロな雰囲気演出

昼間
アーケードがないことで開放的な空間を演出。高齢者、学生、子供の遊程が気軽に訪問できる空間

夜間
ぼんやりと照らされた空間がレトロな非日常的空間を演出。大人の癒し空間

建物の2階床高さに街灯を設置

当駅からほど近いレンガストリートへと続く道が懐かしい雰囲気で見られることにより、歩きたくするレトロストリートに

道路面のテクスチャーを変える

市駅「グリーングリーン」プロジェクト

- 和歌山駅前街の街路空間からまちの再生を目指す社会実験
- 車道4車線のうち2車線を3日間占用して「座と憩いの広場」をつくった
- 4年目となる2017年のテーマは、「24時間楽しめる芝生広場」
- 朝はヨガ、昼はピクニックに音楽・ダンスライブ、夜はトークセッションに映画・ビアガーデン
- スタッフは芝生広場でキャンプをした

大分市中央通り歩行者天国

- JR大分駅前大通りで閉鎖された200畳ものタタミが敷き詰められたマチナカ広敷
- アンケートにより、良かった点について、36.7%が「車道空間を歩くこと」と市民の多くが車道空間を歩く「非日常感」を気に入っていた
- 出店が増え、日田市や佐伯市、豊後高田市、豊後大野市など大分県各地の観光PRのブースも加わり大盛況

手作り灯笼の用いた事例

事例1 「DREAM ART GARDEN 2014」九州産業大学

- 園路が暗い灯笼
- 照らされた緑を見て園路が華やか
- 夜キャンパスに訪れる帰路感
- 大学生と地域住民が親しめる機会

事例2 「小平グリーンロード灯りまつり」東京都小平市

- 園路から通称の方まで住民参加
- ペットボトル灯笼も作成

呉・中通りも、「コスプレで街を活性化」!

- × コスプレイヤーを呼ぶ
- 来場者が、コスプレする

呉海上自衛隊の制服を販売する会社に協力依頼



呉アイデア

ターゲット子供
(幼稚園の帰り等に子供が遊びたくなる)
・大きな風船・トランポリン
→大人はその間にカフェなど

・動物ふれあいカフェ
→子供が「行きたい!」となり、大人も安らげる

ターゲット大人
(夜間利用も考える)
・最新技術 VRやAR
・プラネタリウムや映画鑑賞
→逆に暗いことを利用

・グランピング
→テントを重ねて日陰作成にも(夜寒そう)



The city repair project in Portland

ボランティアスタッフやボランティア市民活動家の手によって
地域コミュニティと共に、人が集う場作り、PLACEMAKINGが行なわれている



Street Painting

交差点や道路を地域コミュニティが協力しあいペインティングする事によって、従来の公共スペースを、人々が集う事ができ、より多目的に活用する事のできる場所に作り替える

Ecological landscaping

コミュニティガーデン、食べ物の取れる畑、ハチの住みかなど、パーマカルチャーデザインに基づいた。人と自然を繋ぎ、共存することのできるエコロジカルランドスケープ作り



「街に光を取り付ける参加型イルミネーション」

地域愛着を生むために街の人の手によるイルミネーションを実現するための活動

所在地: 東京都世田谷区
施主: 尾山台商店街商業会
設計者: 村山和博、菅木亮、長谷川徹、岩島泰博
竣工: 2011年

自分が住みたい街のイルミネーションを模型空間にLEDで表現し、街を再現

住民が自分で考え、自分の手で街に光を取り付けるイルミネーションを通して、街の景観、シークエンス、認知、受容、共有、防犯などの項目を総合的に高めている



Park(ing) Day

路上駐車場 = 公園
(Parking) = (Park)

"パーキングスペースを市民のための空間に"

2005年キリンクラシフィックの学生チームPARKがスタートその後、札幌・宇都宮と市町村を巡り、市民参加型で実現した。数々の事例がある。数々の事例がある。数々の事例がある。



竹あかりプロジェクト内容

課題: 中通りが暗い

提案: 竹を使った照明

日中、住民の方に右図のように竹を装飾(加工)してもらい(広大生が指導)、それを夜間に照明として利用する



レトロストリート (豊川) コスプレ (石橋あ)

Place Making (折口) Parking Day (平野)

動物ふれあいカフェ (石橋か) 道路テクスチャー (赤松)

手作り灯籠 (井上)

提灯を自作 (石橋あ)

キャンドル (千葉) 竹灯籠 (折口)

光を貼り付ける
参加型イルミネーション (押領司)

竹あかり (田村) 希望の光・鐘 (片野)

明るい通り (水澤)

コンセプト

あかりつくる系

あかり系

認識できるデザイン (水澤)

2階床高さに街灯 (豊川)

設えつくる系

芝生広場 (赤松) 象徴するもの (片野)

Ecological Landscape (折口)

店舗と街路空間一体
タタミ敷く (片野) (赤松)

付箋メッセージ (平野)

Street Painting (折口)

希望を聞く (片野)

フォトジェニック場所 (石橋あ) グランピング (石橋か)

ペットボトルアート (平野)

体験系

芝生でボードゲーム (平野) 大きな風船
トランポリン (石橋か)

最新技術(VRやAR) (石橋か)

プラネタリウム
映画鑑賞 (石橋か)

黄色ハンカチ (片野)

マラソン大会 (片野)

参加系

11月13日(水)



11月14日(木)







立ち寄りたくなる
目を引くなにか

親しみエリア

インスタレーションエリア

Google



盆灯 Road



親しみエリア：夜





(可認塞要)

(前日千) り通中市吳















11月29日(金)

道路の活用策 実証実験

呉の中通 市道でフリマや遊具



実証実験が行われている呉市中通2丁目の道路

にぎわいを生み出すための道路の有効な活用策を探る実証実験が、呉市中通2丁目で繰り広げられている。呉中通商店街れんがどおり南側の市道。6日までの期間中、歩行者専用道路としてワークショップや物

認東広島
公自動車学校 毎日
入校受付 082-425-1110

販などを企画する。

11月30日から飲食ブースやフリーマーケット、遊具などが並んでいる。期間中は連日正午〜午後7時をめぐりに出展。広島大の学生が盆灯籠をイメージして作ったモニュメントの明かりが会場を照らす。

新原芳明市長が提唱する

「くれワンダーランド構想」の推進会議で立案された。地元のNPO法人SYLと市の共催。来場者アンケートで効果や課題を検証する。同法人の下野隆司理事長(41)は「道路周辺の事業者も巻き込み、定期的な取り組みに発展させたい」と話す。

(浜村満大)

釣ったフグ食べ食中毒

呉市は2日、呉市の70代男性がフグ毒による食中毒になったと発表した。男性は市内の病院に入院したが、口などのしびれ、呼吸困難があり重症という。市によると、男性は自分が釣ったフグを刺し身にして1日午後食へ、直後に症状を訴えて搬送された。

中国新聞(2019年12月3日)



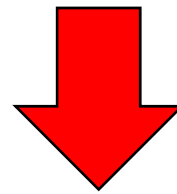




このような取り組みは、どこで行われると効果的？

2020年度の活動

(中通2丁目を含む)呉市中心市街地の賑わい調査を行い、「賑わい現状マップ」を作成。



賑わい創出を目的とした、様々な取り組み(例:公園のカフェ的活用等)について、「どこで」「どのような取り組み」を行うべきか、の検討が可能に…

調査方法

■調査方法

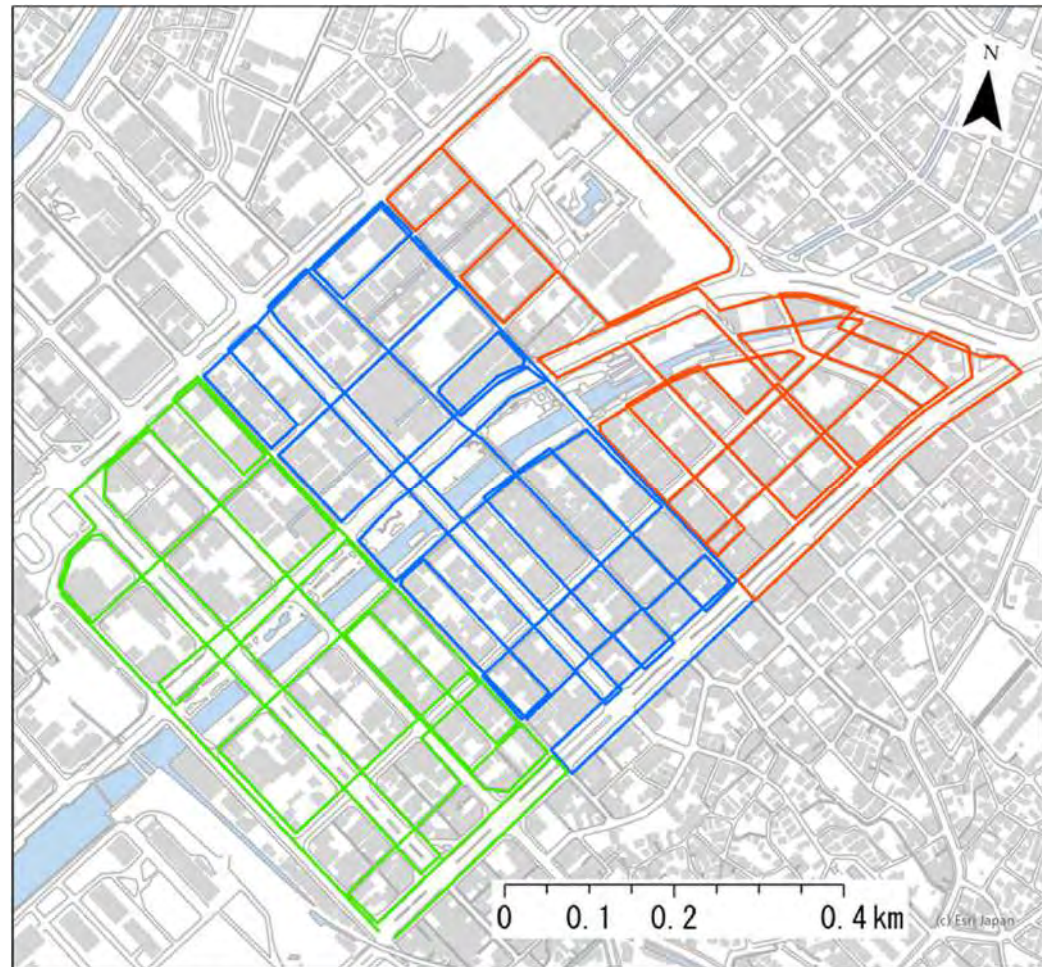
「賑わい施策『発見』マニュアル」のビデオカメラ調査法(国交省)



GoPro Hero



調査で用いた自転車

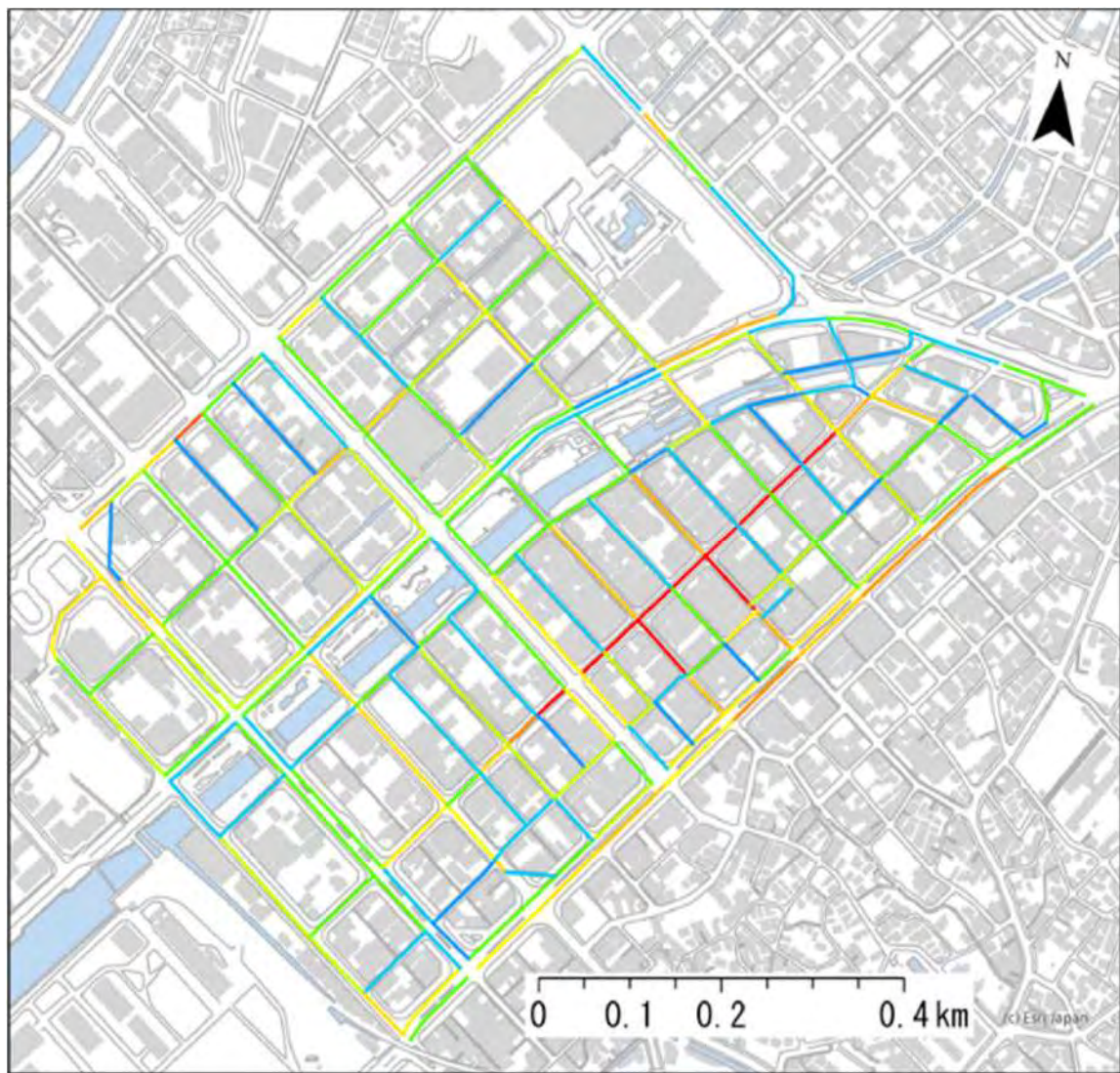


ルートマップ

調査方法



呉市中心市街地賑わい現状マップ



総行動者量分布



論文に・・・

赤木七海・田中貴宏・田村将太：住商混在地域の道路空間における行動者量と物的環境の関連性に関する研究—呉市中心市街地を対象として—

日本建築学会中国支部研究報告集, Vol. 44, 773-776, 2021

住商混在地域の道路空間における行動者量と物的環境の関連性に関する研究—呉市中心市街地を対象として—

住商混在地域 地方都市 道路空間
行動者量 物的環境

正会員 ○赤木七海¹
同 田中貴宏²
同 田村将太³

1. はじめに

近年、多くの地方都市は人口減少にあり、それに伴い、その中心市街地の衰退も進んでいる。その対策のひとつとして、立地適正化計画などを利用し、施設立地の誘導を進めている自治体は多く見られる。しかし、地方都市の中心市街地の衰退を抑え、人口を維持するためには、施設立地の誘導だけでなく、まちとしての魅力向上も必要と考えられる。そのための方策として、道路空間等、公共空間の賑わい向上を図ることはまちの魅力向上につながると思われる。

道路空間の賑わいの要因のひとつとして、その物的環境が挙げられる。そこで、中心市街地の賑わい創出に向けて、道路空間の賑わいに寄与する物的環境要素を抽出する必要があると考えられる。

行動者量と道路の物的環境の関連を調査した研究としては、木造密集市街地の街路に着目したものの¹⁾や、大通りにおける位相構造に着目したものの²⁾など多くあるが、それらは首都圏や近畿圏の都市を対象としたもので、人口減少にある地方都市を対象としたものは少ない。また、多くの地方都市の中心市街地は商業や住居の機能が狭いエリアに集積する住商混在地域となっている。よって、地方都市の中心市街地の賑わいを検討する上では、住商混在地域の特性に着目する必要があると考えた。

以上より本研究では、住商混在地域の道路空間における行動者量と物的環境との関連分析によって、道路空間における行動者量に影響を与える物的環境を抽出し、最終的には、賑わい創出に寄与する道路空間の特性を明らかにすることを目的とした。

2. 研究概要

2-1. 対象地の概要

本研究は広島県呉市の中心市街地を対象とした(図1)。このエリアには、JR 呉線の呉駅前地区や、呉市本庁舎、日本初の開閉式ドーム型アーケードを設置したことで知られる呉中通り商店街などが立地しており、呉市の機能が集積する。

2-2. 研究方法

本研究は以下の手順で進めた。次章以降で、これらの方法と結果について述べる。

(1) 行動者量調査

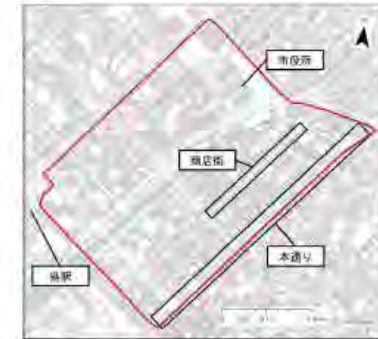


図1 対象地概要

(2) 物的環境調査

(3) 行動者量と物的環境の関連分析

3. 行動者量調査

3-1. 調査概要

交差点と交差点の間の街路を、1つの街路単位とし、対象地内の全街路を対象に、行動者量調査を行った。なお、横断歩道は対象から除外した。調査日時、調査方法を以下に記す。

(1) 調査日時

調査は、気候などの影響を考慮し、夏季と秋季、それぞれ以下の日程で実施した。また、調査時間については行動者に特徴があると考えられる8時、10時、12時、14時、17時とした。

- ・夏季 8月6日(木)、8月9日(日)
8月27日(木)、8月30日(日)
- ・秋季 11月5日(木)、11月8日(日)
11月12日(木)、11月15日(日)

(2) 調査方法

対象地内の細街路も含む全街路(計269街路)を対象とし、『賑わいづくり施設『発見』マニュアル(国土交通省)』にある『ビデオ自転車調査』の手法を用い、行動者量分布の把握を行った。具体的には、まず対象地区を3つのエリアに分け、それぞれ自転車で30~50分で走行可能なルートを作成した。そして(1)の各調査時間に調査開始とし、

Takahiro TANAKA, Nanami AEGAI
and Shou TAMURA

地域の元気応援プロジェクトに参加してよかったところ

- 事前調査（ニーズ把握等）、計画、提案、実践という一連の流れを、学生が経験することができた。
→そのような機会は少ない。
- 学生が、地域で時間を過ごし、直接の皆さんの声を聞くことにより、地域のポテンシャルや課題を把握することができた。
→2020年度への研究的展開
- 地域の皆さんが、学生を暖かく迎えてくれたこと。→ありがとうございました！

今後の展開

以下を計画している。

- 1：呉市中心市街地の「賑わいマップ」を活用した、まち全体の賑わい方策の検討・提案。
- 2：公園の活用方策の検討・提案。
- 3：緑の環境調査（グリーンインフラ）。